



写真: 甌岳 (平成21年9月1日)

ススキ

えびの高原は、一面にススキが広がり、移ろいゆく自然の姿に心ひかれる季節を迎えます

八月も半ばを過ぎると、えびの高原では秋の気配が感じられ、朝夕の気温は20℃を下回り、もう厳しい夏の暑さはありません。例年お盆のころ、最初のススキの穂を見つけることができます。ススキの穂は小さな花の集まりで、暗い赤紫色をしています。種になると白いふわふわの毛が生え、種は風によって飛んでいきます。かつてえびの高原には硫黄山の噴気が漂っており、これに含まれる亜硫酸ガスの影響で、えびの高原のススキは他所でみられるススキに比べてより赤くなっていました。花の時期だけでなく種の時期にも赤色が目立ち、硫黄山の斜面が赤く染まって見えるほどだったそうです。

えびの高原の名前の由来はススキが一面に広がり、赤いえび色になることから付けられたという説が有力です。

近年、硫黄山の噴気はほとんどなくなり、以前のようにススキが赤く染まることはなくなりました。移ろいゆく自然の姿に心ひかれる季節です。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

ススキ
Miscanthus sinensis

イネ科 ススキ属